

特集

医療の原点としての救急医療 協和会病院救急部『ER』開設



救急科部長
濱口 伊久夫

【日本救急医学会認定 救急科専門医
日本外科学会認定 指導医・専門医
日本外科感染症学会認定 ICD】

はじめに

近年の生活習慣病に対する予防医学の発展にはめざましいものがありますが、その一方で、突然意識を失って倒れたり、苦しみました方、ケガをした方を目的にして適切な処置を行い、「いのち」を救う救急医療は、いつの時代でも私どもが行うべき医療の原点であり、また、皆様医療に求める大きな期待の一つでもあります。そこには「いつ

救急医療の新たな流れ

厚生労働省は今年4月、急病者のうち、重症患者の入院治療を行う医療機関に対する支援策を発表しました。これは地域における緊急入院体制の整備という国の姿勢を示したものであります。また、2004年から始まった新臨床研修制度の中で「救急医療」が必修化されたことも特筆すべきことで、すべての医師にその専門科を問わず救急処置が行える教育をという国民の期

待に込めるものであります。ER型救急システム整備された救急医療システムには、致命的な重症患者のみを扱う「救命救急センター」方式と、軽症から重症まですべての救急患者を扱う北米型の「ER (Emergency) 方式」があります。日本では、これまで救急の力ナメとしての救命救急センターが発展してきましたが、最近、ER型救急システムが脚光を浴びています。この背景には、医療経済効率の問題や、新臨床研修での救急必修化に関連して多くの救急症例を経験できる施設の必要性があげられますが、国民の側からみても、「いつでもどこでもだれでも」受けられる救急医療体制への期待に込めるものと存じます。

協和会病院救急部『ER』開設

以上のような流れのなかで、当院では6月1日より、救急・急患の受け入れ体制を強化し、地域の皆様にさらに貢献する目的で、「ER型救急システム」の「救急部」を開設いたしました。そして私が救急部長として「ER専従医」を担当することに

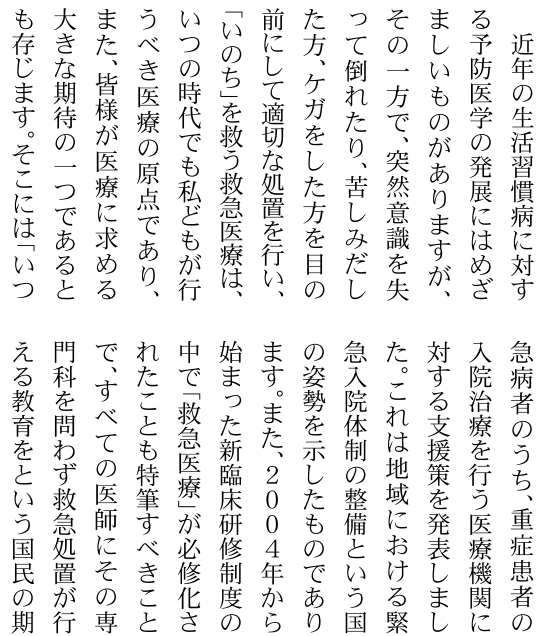
なりました。私は1992年より約6年間高槻市にある大阪府三島救命救急センターに勤務いたしました。さまざまな救急疾患を診療した経験を最大限活かす所存でございます。

今後の課題

当院ERはまだ発足したばかりですので、人員やER専用室の問題等いろいろな課題を抱えております。当面、ER専従医が常駐するのは夕方までで、夜間休日には従来どおり各科医師が直ちにしかるべき施設に搬送いたします。また、空きベッドがないという理由で受け入れをお断りすることがないよう、専従の看護師を「ベッド管理士」として常駐させ、ベッドを確保いたします。

おわりに

救急医療は医療の原点であり、急病やケガで困ったときに「いつでもなんでもすぐに」診てくれるということが、病院が地域の皆様から信頼される大きな要素の一つであると存じます。この度、「ER専従医」が常駐する「ER」を開設することで、医師や看護師、技師、事務職といったすべての職員が一丸となって、「受け入れを断らない」救急医療体制を確立させていく所存でございます。



ER型救急システム

ER型救急システムの大きな特徴は、救急の幅広い知識と技術を持ち、すべての救急患者の初期診療を行う能力を持った「ER専従医」が「ER救急外来」に常駐することです。そしてすべての救急患者を断ることなく受け入れ、救急初期診療

救命の連鎖 chain of survival

当院のER型救急システム

当院では、昨年1年間で約2200件の救急・急患を受け入れて参りました。しかし、これまでは率直なところ、各科医師が交代で

救急部『ER』開設

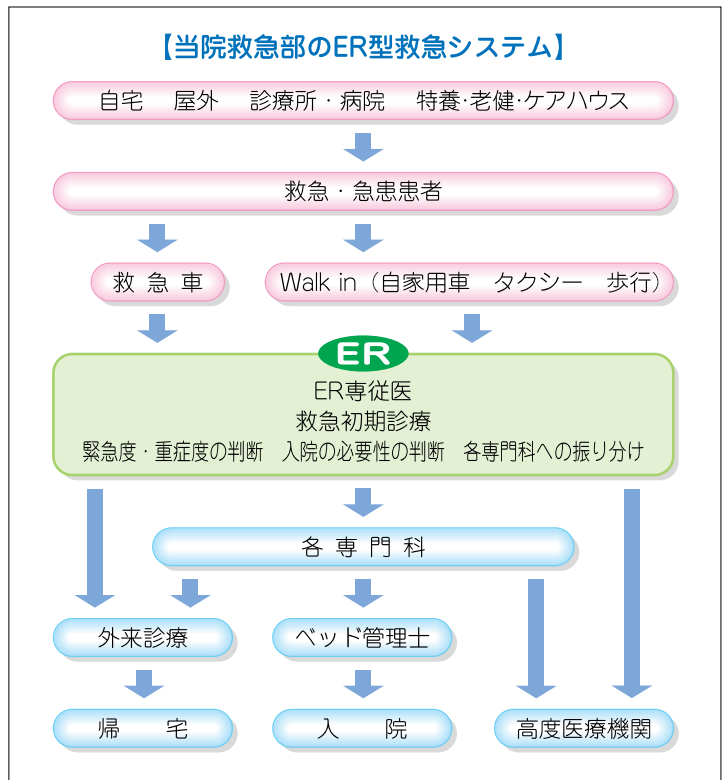
受け入れる体制であったため、当番医の多忙、専門外という理由や、空きベッドがないという管理上の問題で受け入れをお断りしたこともありました。今後は、ER型救急システムとしてER専従医が常駐することで、救急・急患の診療要請を受けた場合は、急病やケガの内容を問わず、すべて来院していただきます。そしてER専従医が救急初期診療を行います。その上で重症

新入職医師の紹介

清瀧 千晴 (きよたき ちはる)
■専門科目/免疫・アレルギー内科
簡単なプロフィール
・和歌山医科大学 昭和49年卒
・大阪大学医学部大学院 昭和53年卒
・卒後14年は研究、その後は臨床(一般内科)に従事してきました。これからも広く診療していきます。

牧田 香理 (まきた かおり)
■専門科目/血液内科
簡単なプロフィール
・奈良県立医科大学 平成2年卒
・日本血液学会認定指導医・専門医
・日本臨床腫瘍学会認定指導医
・日本内科学会認定医
・気になる事があれば何でも相談してください。

一宮 昭彦 (いちみや あきひこ)
■専門科目/呼吸器外科
簡単なプロフィール
・大阪大学医学部 昭和55年卒
・臨床経験は豊富ですので専門にとらわれず診療していきたいと思っております。



協和会病院救急部『ER』開設

以上のような流れのなかで、当院では6月1日より、救急・急患の受け入れ体制を強化し、地域の皆様にさらに貢献する目的で、「ER型救急システム」の「救急部」を開設いたしました。そして私が救急部長として「ER専従医」を担当することに

協和会病院救急部『ER』開設

以上のような流れのなかで、当院では6月1日より、救急・急患の受け入れ体制を強化し、地域の皆様にさらに貢献する目的で、「ER型救急システム」の「救急部」を開設いたしました。そして私が救急部長として「ER専従医」を担当することに

病院理念 一知・技・心一

専門的な知識と技術の向上を図り心をこめて安心の医療を提供します

基本方針

- 「患者様中心」を常に心がけ満足される医療を提供します
- 急性期から回復期まで、地域に求められる医療を提供します
- 医療技術の向上につとめ専門性の高い医療を提供します
- 人員・設備・環境を整え安心で安全な医療を提供します
- 患者様・職員共に人権を尊重し公正な医療を提供します

最良のサービス 質の高い医療
環境の整備 患者様
人権の尊重 地域医療

医療法人 協和会 協和会病院
2006.2.1 改訂

医療法人協和会 協和会病院 職業倫理について

- 私たちは、生涯学習の精神を保ち、つねに知識と技術の取得に努めるとともに、その進歩・発展に尽くします。
- 私たちは、その職務と責任を自覚し、教養を深め、人格を高めるように努めます。
- 私たちは、医療を受ける人々の人格を尊重し、優しい心で接するとともに、医療内容やその他必要な事項についてよく説明し、安心感と信頼を得るよう努めます。
- 私たちは、お互いに尊敬し、協力して適正な医療を提供します。
- 私たちは、医療の公共性を重んじ、医療を通じて社会の発展に尽くします。
- 私たちは、医療を受ける人々のプライバシーを尊重し、職務上の守秘義務を遵守します。

平成17年7月1日制定

協和会病院ご案内

医療法人協和会 協和会病院 吹田市岸部北1丁目24番1号
(代)06-6339-3455

- 理事長/木曾 賢造
- 院長/増田 公人
- 開院年月日/1988年(S63)3月
- 診療科目/内科、循環器科、消化器科、外科、整形外科、脳神経外科、放射線科、リウマチ科、リハビリテーション科
- 専門外来/眼科(木曜日午後) 泌尿器科(月曜日13:00~14:45) 皮膚科(水曜日14:30~15:30) 神経内科(木曜日午前)
- 診察時間/午前診 9:00~12:00(月~土曜日) 午後診 13:00~15:30(金曜日) 夜診 17:30~19:30(月~金曜日)

※救急は24時間体制で対応します(二次救急指定)。

入院環境の充実を目指す！ ～低床ベッドを導入しました～

リハビリ訓練が充実している当院では、身体障害を抱えながら、生活機能訓練に取り組まれている患者様が多くいらっしゃいます。高齢者の方も多く、より安全な入院環境を整える視点から、低床ベッドを導入しました。床から25cmの高さまでベッドのアップダウンが可能でより患者様に合わせた高さに調節して使用できます。また、薄型液晶テレビも購入して患者様のニーズに少しでもお応え出来るように改善させて頂いております。 <3階東 杉原幸恵>

床から25cmの高さまでベッドのアップダウンが可能。



薄型液晶テレビ

職場紹介

手術室

こんにちは。私たち7名で手術室・中材を切り盛りしています。普段は帽子とマスクに身を包みひっそり？と働いていますが、個性豊かな平均年齢31歳の魅惑の集団なのです。それでは自己紹介を。キラリーン☆いつも見えますよ～加藤です。怒ってないですよ、大霜です。パワフルムードメーカー小川です。なんでもスピーディー！井上です。ハートはフレッシュ、ナースマン酢谷です。なまってるません！宿利です。おっちょこちょいの三浦です。こんな私たちが、「安全第一・仕事はきっちり」をモットーにがんばっています。 <手術室 加藤直子>



保育所

こんにちは。保育所を紹介します。保育所は、子ども達を預けて安心して働ける様にお母さん達が勤務している間、子ども達を預かっています。日曜出勤や当直勤務もあり、現在、子ども16名。0歳～3歳児が中心で年齢に合った生活習慣の指導を行ったり、戸外遊びを中心に季節の行事や製作を取り入れた保育を保育士6名が交代で行っています。とにかく、朝から笑ったり・泣いたり・怒ったり・すねたり・走り回ったりと、一日中パワー全開で、疲れ知らずの子ども達。こんな16人の小さくて、わんぱくなアバレンジャー達と、楽しく、元気に格闘する毎日です。この様に、いつも賑やかな保育所ですが、これからも少しでも多く、お母さん達の育児の手助けが出来る様、スタッフ一同、体力の続く限り頑張りたいと思います。 <保育所 長谷由香里>



今年も 看護フェア行いました!!



看護師が患者様の体脂肪測定を行っている風景です。

5月12日「看護の日」に当院では毎年恒例の看護フェアを開催しました。身体計測や健康相談のほかに、新たな取り組みとして理学療法士による体力測定を行いました。内容は柔軟性・反射・バランス感覚の測定を行いましたが、特に女性に好評で沢山参加していただきました。皆さん私たちの想像以上に身体能力が高く、健康に対する関心の高さに驚きました。ご参加ありがとうございました。 <3階東 杉原幸恵>

『体にあった車椅子選び』

皆様、衣服を着られる時にどのような点を気にされますか？サイズ・着心地・デザイン…様々だと思います。体が不自由な方が生活を送る上で欠かせない車椅子も同じではないでしょうか？きつい(ぶかぶかの)車椅子を着用されていませんか？着心地(乗り心地)はどうですか？今回、体にあった車椅子選びのチェックポイントを簡単にご紹介します。 <作業療法科 藤原太郎>



●シートの幅

お尻の幅プラス5cmくらいが目安。(介助の人の手が入る程度)

●肘掛けの高さ

肘を無理なく曲げて乗せられるくらい。

●背もたれの高さ

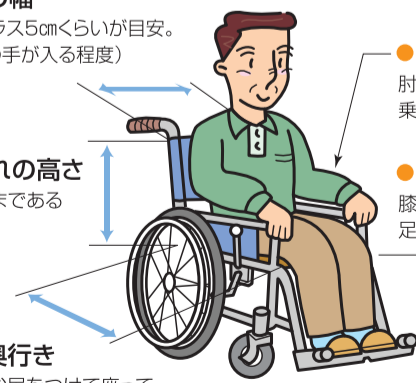
肩甲骨の下までであることが基本。

●シートの高さ

膝下の高さを合わせる。足がぶつからないように。

●シート奥行き

背もたれにお尻をつけて座って、ひざの内側が少し出るくらいが良い。



この他に、乗り心地を良くするために、クッションなどを利用されると良いかと思えます。また、デザインはまだ種類が少ないですが、チェック柄など幅が広がってきています。是非、皆様好みの、体に合った車椅子を選んでみて下さい!! ご質問がありましたら、お気軽にリハビリ科までご相談下さい。

和～なごみ～アンケート調査結果について

平成18年5月29日(月)～6月2日(金)までの5日間、合計73名の患者様及びご家族様より貴重なお意見を頂きました。その中から、数件のご意見を紹介させていただきます。

- 1 特集の『経皮的冠動脈インターベンションの最前線』は、身内が同じ手術を受けたので興味深く読ませて頂き判り易かった。
- 2 反対の意見として、医療用語が難しい。
- 3 職場紹介での皆様の笑顔は、好感度がある。
- 4 和の場「ストレッチ体操」を見て早速実行しています。

5 患者満足度調査では、外来が混雑している場合、番号表をまめに表示して欲しい。

6 もう少し頻繁に広報誌を発行して欲しい。

7 リハビリによって回復された人の体験談を詳しく載せてはどうですか？

など沢山のご意見を頂きました。広報誌委員会では、今後取り入れて行けるご意見については少しでも皆様の声を反映させてより充実した広報誌にして参りたいと考えております。ご協力ありがとうございました。 <広報誌委員会>

リウマチ教室のご案内

リウマチ教室を開催致します。どうぞお気軽にご参加ください。

日時/平成18年7月22日(土) 午後2時～4時

演題/「リウマチのABC その①」 協和会病院 リウマチセンター長 村田 紀和

会場 医療法人協和会 介護老人保健施設 2F食堂(協和会病院併設) ウェルハウス協和 吹田市岸部北1-24-2

※講演後に約1時間の療養相談を行います。
※作業療法科(OT)による療養指導もご致します。

お問合せ先 TEL 06-6339-3455 協和会病院まで